

7・16代々木公園へ！

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年 6 月25日

No 35

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

6/29首相官邸前に10万人結集を！

6月29日18時
首相官邸前集合

6月22日に再稼働に対する怒りで4万5千人が首相官邸前に結集しました。6月29日、首相官邸前に10万人結集の大行動が呼びかけられています。フクシマの怒りと結び、呼びかけに応じて大結集しよう！

●佐藤幸子さんの6・29結集アピール！

福島県伊達郡川俣町というところから来ました。

多くの人たちは避難をしていった人に対して、「ふるさとを捨てていく」というような言い方で非難するようになってしまっ

て、本当に家庭の中で、職場の中で、地域の中で、いろいろな分断が起こっていました。避難した人もそれで全部もう楽になったかというところではないんです。出て行ったら出て行ったの苦勞ももちろんあるわけです。完全に移住を決めたわけではなくて、多少年数がたってからでも帰れるのであれば帰ると出た人もいますが、一度出て帰ってくるというときに地元の人たちとの関係がよくなければ、帰ってきてからうまく生活をしていくことできないんじゃないかと不安も抱えながらいます。

ここにお集まりの方は今迄だって原発を認めてきたわけじゃないと思うんですよ。ですけれども結果として認めてきてしまったような形になって、原発が動いていたので、これを止めないと子どもに顔向けできないなという風に思って、去年のお彼岸のときにですね、母のお墓参りに言った時に、私は、原発を止めるまでは二度とお墓参りにはきませんという風に約束して、母の眠っているお墓のすべてに花を添えて応援してくださいということで帰ってきたんです。本当に、原発を止めなかったら、子どもは守れないという気持ちを常に持ち続けて生きております。

大学生は今、なかなか声があがっていないんですよ。何も考えていないとは思えないんですけど、なかなか大学生がそういう話をするというのは難しいと思うんですよね。大学の中でもなかなかできないと思っているんですけども、大学生が不安に思っていることを何をしゃべってもいいんだよと思うんですよ。そうか、やっぱり大学の中でしゃべれないんだって思いました。これは文科省にいったときに思いましたね。自分で



は最終決断はしない。取りたくない。全部上で決めてもらったのをやればいいという風にして今まで日本はやってきたし、今のそういう大人をつくりだすための教育をしてきたんだなと感じました。やっぱりそうじゃなくて、自分で最終決断してそれによって、起こったことは責任をもって取るということを動かないといけないと思うんです。

しかし、野田首相の発言は責任を取っているとは思えません。自分の責任で原発の再稼働をするって言うておいて、責任がとれるかという、そんなはずないじゃないかとそういうことだと思っ

た29日、福島の女たちがまた来ます。原発を止める、再稼働させないという風に話をしたいと思う。18時から官邸前でいつものようにやると思うのでそちらに合流したいと思っています。

福島が未だに収束もされていないし、4号機はいつ倒れるかわからないという状況が続いています。ぜひ、それを思いながら、福島と一緒に立ち上がってほしいと思います。(6月23日に行われたNAZEN杉並結成集会での発言より引用・抜粋)



6月22日、首相官邸前に4万5千人が結集し「再稼働阻止」を訴える！

7・16 さようなら原発 10万人集会

再稼働阻止！ 被曝労働反対！ すべての原発いまずぐなくそう！

7月16日(月・祝) 13時～

東京・代々木公園にて

12時半からオープニング・コンサート、13時半からデモ出発
会場へは、JR原宿駅より徒歩5分、同渋谷駅より徒歩10分

【呼びかけ】さようなら原発1000万人アクション

<内橋克人、大江健三郎、落合恵子、鎌田慧、坂本龍一、

澤地久枝、瀬戸内寂聴、辻井喬、鶴見俊輔>

6万人が集まった昨年9月19日の反原発集会(明治公園)



7・6 京都大学学生集会へ！

7月6日の京都大学学生集会への呼びかけが発せられたので転載します。

7・6 京都大学学生集会へのよびかけ

京都大学全学自治会同学会
執行委員会（暫定）

大学はこのままでいいのか！？

2011年、学生の自殺者数は、はじめて1000人を超えました。年間1000人を超す若い学生達が自ら死を選んでいるというのです。2011年度の就職率、内定率は、ともに最低を記録。授業料は相変わらず、過去最高の54万円（私立だと平均90万円近く！）です。

一体、大学はどうなってしまうのでしょうか。学生自身がこの現実を主体的に考え、変革する力を持とう。そんな思いの第一歩として、私たちは、7月6日、京都大学で学生集会を開催することにしました。

大学を取り巻く情勢は、大きく変質しています。それは、徹底的に市場原理を適用して、大学運営で金儲けをしていくあり方への転換です。

2004年の国立大学法人化はこの流れをより加速させました。運営費交付金の徹底した削減の結果（法人化以降国立大学全体で1000億円近く削減されています）、大学は企業からの寄付金や寄附講座に頼らざるをえなくなり、自由な学問を追求する研究は非常に困難になってしまいました。

私たちの通う京都大学においては、法人化以降の75億円の交付金削減を埋めたのは、5年間で33億円にも上る原発マネーでした。昨年3月11日の東日本大震災以降、権威ある大学の様々な研究者が原発擁護の発言を繰り返していましたが、それには利害関係に基づいた理由がちゃんとあるのです。

他方で、学生生活はもはや悲惨と言わざるをえません。高額な学費の中で、学生の既に3分の1が奨学金を受けざるを得ず、それが新たな市場となって企業が群がっています。学資ローンの市場規模は、この15年で12倍（その規模8000億円強！）にもなりました。利子がかさむ学資ローンを、「二人に一人が非正規職」といわれる情勢の中で返済できるわけも無く、滞納者は既に30万人を超えています。しかも、そこまでして払った学費を、大学当局は投資につぎ込んで、マネーゲームをしているのですから、笑い事ではありません。

しかし、忘れてはならないのは、これらの現実はいかなる偶然生み出されたものではなく、新自由主義という政策の中で強制されたものだということです。

日本の教育予算はOECD加盟国中の最低水準。大学教育においては、加盟国平均と比較して半分にも足りません。これは額にすれば2兆5千億円の不足であり、これは日本の国公立全ての大学の学費を無償にすることが出来る規模です。

ドイツの学生達が昨年学費の無償化を求めて何万人とデモに立ち上がり、今年度からもう一度無償化を勝ち取っていますが、世界の常識から言えば、なんら不思議なことではありません。日本が異常なのです。

学費の高騰、奨学金ローンの拡大、就職難、自殺…。この目を背けたくないような現実の中で、私たち学生にとって何よりも悲惨な現状とは、この現実の声を上上げる力が徹底的に奪われてきたことです。新自由主義政策の中で、学生自治会はとことん解体、形骸化あるい

は非公認化され、法人化以降は、役員会や経営協議会が大学運営を牛耳り、教授会すらまともに口を挟むことは出来なくなりました。行き詰った現状に対して、それを変えていく契機そのものが奪われている。この閉塞感こそが、自殺者が1000人を超える大学の現実を生み出しているのではないのでしょうか。

大学の主人公は学生です。学生が層として声を上げた時に、大学を変革することは必ず出来る。それは様々な大学の自治会の歴史が証明していると思います。例えば、法政大学においては国立大学より安い学費を維持していましたし、京都大学では自治会が学生寮を建ててきました。東京大学では入学試験を中止させ、逆に沖縄大学では認可の olmayan 大学で自主的な入学試験を貫徹したこともありました。

この学生自治の歴史と力を、今こそ甦らせたい。これが、私たちの一番の思いです。

私たちは、この閉塞感をなんとか打ち破るために、学生自治会（全学自治会同学会）を実態あるものとして復権させようと奮闘しています。今年度は、多くの学生とクラスで討論し、直接選挙を通じて暫定的な執行部も打ち立てました。選挙で投じられた3042人の投票と2149人の信任は、京大生総数から言えばまだまだ多いとはいえませんが、60年代、70年代と比較しても遜色ない規模にはなっただろうと自負しております。

選挙過程では多くの学生が、大学のことを主体的に考え、意見をぶつけてくれました。「大学の授業がつまらない。」「授業料が高すぎて大学を辞めなくてはならないかもしれない。」「出席で単位を取るだけなんて、中学・高校となにも変わらない。」

次のステップは、この思いを大学を揺さぶる具体的な力に転化していくことです。とりわけ、全ての責任者である総長と堂々と交渉することだろうと思います。

具体的な行動もはじめました。関西電力の元社長で、04年の美浜原発事故（現場作業員の5人が死亡し、6人が重軽傷をおった大事故）で引責辞任したはずの藤洋作氏が、どうして京都大学の経営協議会委員に就いているのか。現在、その説明を、任命者である松本総長に求めています。こうした行動を通して、総長や経営協議会に対しても、学生の意志を貫く自治会として、同学会を建設していきたいと考えているのです。

そして、その為の最大の武器は、学生の団結です。一人一人では弱い立場の学生も、団結して行動した時に、ものすごい力を発揮することが出来る。学生なしには大学は成り立たないからです。だからこそ、学生の繋がりをどんどん拡大したいと思っています。一人よりクラスでまとまって動いたら力になるでしょうし、クラスから学部、大学、全国大学へと広がっていけば、その力は無限大になっていくことでしょ

う。繋がりをつくるために一番大事なものは、学生同士が問題意識をぶつけ合って、討論を開始することでしょう。私たちは、そのような場として、7月6日、学生集会を開催します。もちろん、私たちの方針に批判的な意見も大歓迎です。その思いこそが、積極的な討論とよりよい自治会をつくるのです。

学生集会では、学籍、年齢、大学関係なく、同学会に意見のある全ての人を歓迎します。是非集会に来てください！そして、討論を開始しましょう！

多くの人のご参加をお待ちしています。

以上